

2024 年度秋季大会 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2024 年 11 月 16 日（土）・17 日（日）

会 場：姫路市市民会館（兵庫県姫路市）

公益社団法人「日本語教育学会」では、最新の研究と実践の成果を発信・共有し、参加者間の交流およびネットワーキングの促進を目的とした大会を年 2 回（春・秋）開催しています。コロナ禍を経て、昨年度より春季大会をオンラインで、秋季大会は対面で開催しております。今回は西日本では 5 年ぶりの開催となりました。本大会では、有料イベントへの事前参加登録者数は 681 名（招待・関係者含む）で、44 都道府県および世界の 7 つの国・地域からの参加がありました。大会期間中は、パネルセッション 5 件、口頭発表 24 件、ポスター発表 36 件が、審査・運営協力員の協力のもと行われました。詳細は大会プログラムおよび発表要旨をご参照ください。なお、大会予稿集は大会終了 2 週間後から、学会ホームページで無料公開されております。パネルセッション・口頭発表・ポスター発表のほかに、大会 1 日目には社会啓発委員会の企画による一般公開プログラム「外国介護人材の日本語教育はどうあるべきか—協働への新たな文脈—」が開催され、介護福祉学研究者、介護施設運営者、外国介護人材当事者、日本語教師の立場から協働を進めるための議論が行われました。また、日本語教育を学ぶ学生や研究活動を始めたばかりの方々の大会参加をサポートする「わかばさんいらっしやい」（チャレンジ支援委員会）のほか、「交流ひろば」（支部活動委員会）も開催され、会場は熱気に満ちていました。本大会では対面開催の機会を活かし、学会員同士の交流の場を提供することを目的として「懇親会」を実施しました。続く 2 日目には、学会参加に関する疑問に答える「わかば・コンシェルジュ」（チャレンジ支援委員会）が設置されるとともに、外国ルーツの市民との共生に向けて関西で実践されている取り組みを紹介する「地域発信企画」（支部活動委員会）も実施されました。午前と午後の口頭発表の間には、説明会「日本語教育学会のこれからを考える」のほか、調査研究推進セミナー「実践研究のすすめ」（調査研究推進委員会）、「日本語教育グローバル人材奨励プログラム説明会」（国際連携委員会）が実施されました。賛助団体会員出展ブースにも参加者が集い、研究や実践に関する情報収集が盛んに行われていました。なお、前回 2023 年度秋季大会より、若手会員を中心とする大会サポーターによる大会運営協力も始まっております。晩秋を迎えた瀬戸内地方の温暖な気候に迎えられた今大会には遠方からも多くの参加者が集まり、活発な議論が繰り広げられるとともに、会場の随所で再会を喜び、情報交換を行う参加者の様子が見られました。次回春季大会は、2025 年 5



月 24 日（土）・25 日（日）にオンラインで開催される予定です。

（文責：大会委員会）